令和５年度　奈良県立郡山高等学校　学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和５年度（中期計画２年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	長い伝統の中で培われた文武両道の精神を基礎に、社会に有為な人材を育成する。
年度重点目標	本校教育実践の蓄積を生かしつつ、新しい時代に生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。 （1）生徒の学習が活性化し、積極的に学びに向かうよう、ＩＣＴ等を活用し、授業改善を進める。 （2）自ら課題を見つけ考え、他者に伝える力を身につけ協働していくため、探究的取組を積極的に進める。 （3）将来への希望を育み、その実現に向かうエネルギーを培う。また、変化する入試などの情報を的確に把握し、進路実現につなげる。 （4）部活動、学校行事、地域協働等をとおして、豊かな人間性の涵養と人格の陶冶に努める。

１　スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 １　集団の中において自らの役割を理解し、自ら考え積極的に貢献しようとする生徒 ２　基礎的学力を身につけた上で、課題を解決できる力を伸ばそうとする意欲のある生徒 ３　部活動や学校行事などに参加し、自らの人間力を高めようとする生徒 ４　自他尊重の精神を持ち、人を大切にする意識が高い生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	本校では、新しい時代を切り開く資質・能力を育成するために、確かな知識理解力や思考力を身につけ自ら考えることのできる確かな学力と豊かな心情や穏やかな身体を育成することを目指し、以下の方針を示します。 １　「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく培い、進路実現につなげることに注力する。 ２　新しく構築した総合的な探究の時間を軸に、各教科にわたり応用力を磨く。 ３　学校行事や地域活動への参加を活発にし、集団としての行動力やコミュニケーション力を身に付ける。 ４　部活動を通して人間力を高める活動を大切にする。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 １　卒業後も向上心を絶やすことなく、自ら学び続けることができる。 ２　自分を大切にし、人を思いやり、集団の構成員としての役割を果たそうとする心情を確固とする。 ３　新しい時代を切り開こうとする気概を持ち、有為な人材として社会に積極的に参加しようとする意思を持つ。

２　奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（Ａ）	計画期間における具体的目標（Ｂ）	令和６年度末の目標値等（Ｃ）	令和５年度末の状況（Ｄ）	自己評価（Ｅ）	学校関係者評価（Ｆ）	改　善　方　策
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基本的生活習慣の確立	挨拶自己達成率９０％以上	挨拶自己達成率８５％以上	自ら挨拶を心掛けている生徒は８３％である。	昨年度が８２％で、給内での観察において我々の指導がまだ行き届いていない実態が見える。	挨拶は重要である。教員からの声かけを継続して欲しい。	校内や授業時に挨拶をする習慣が身付いており、教員から積極的に挨拶をすることで意識付けを行う必要がある。
	部活動の充実	１、２年生３学期の加入率９０％以上かつ入部者の満足度９０％以上	１、２年生３学期の加入率９０％以上かつ入部者の満足度９０％以上	全学年部活動所属率は９４％、満足度は全体で９０％と目標値を達成している。	各部活動顧問の先生方の努力で「文武両道」という本校の伝統が引き継がれている。	今後も良き伝統を引き継いでもらいたい。	部活動顧問会議や部員集会を通して、部活動の意義や精神を伝えていく。
	学校行事に関わる意欲向上	実態調査で「意欲的に取り組めた」とする生徒９０％以上	諸行事の実施（コロナ補助の水準で）と生徒意欲の喚起	各行事はコロナ補助と ほぼ同内容を行った。自発的に参加できたとの回答は９４％であった。	コロナ禍が続いり、各行事を以前同様に実施することができた。生徒は様々な学校行事に主体的に参加できたようである。	良好である。	学校行事に熱心に取り組む生徒が多いので、その気持ちに応えられるような企画を練っていく。
	基礎体力の向上	２、３年生の体力テスト平均Ｔスコア５０以上	２、３年生の体力テスト平均Ｔスコア５０以上	総合評価は平均ＴスコアＥ５０、３で目標を上回ることができているが、ハンドボール及びはＴスコア４６．６と目標を下回った。	測定には積極的に取り組む姿勢がみられるので非常に良いと思われる。継続して取り組み、全種目のスコアを５０を超えるようにしたい。	良好である。	積極的に運動に取り組む姿勢をはぐくむ環境づくりや、運動や健康に関心を持つような啓発活動を継続して行っていく。
	読書意欲の向上	生徒実態調査、ビブリオバトル後アンケートで関心の高まり７５％以上	生徒実態調査、ビブリオバトル後アンケートで関心の高まり７３％以上	図書だより「共鳴」で読みたい本があった生徒が４４．４％、ビブリオバトルで読みたい本・興味を持った本があった生徒が９２．５％、全体で６８．４％であった。	図書だより「共鳴」、ビブリオバトル共に前年度を下回った。「共鳴」では、新たな内容も始めたが結果に結びつかなかった。	授業のとおり、ビブリオバトルの更なる充実を期待する。	「共鳴」の更なる改善と、ビブリオバトルの事前指導の充実を図る。
	基本的生活習慣の確立	美化活動への積極性を育む。実態調査で、「清掃にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、５５％以上	美化活動への積極性を育む。実態調査で、「清掃にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が５０％以上	清掃への取り組みが「すすんで」と「おおむね」を合わせると９８．１％であるが、「すすんで」は４７．９％である。目標の５０％までもう一息である。	昨年の「すすんで取り組んでいる」より＋４．６であり、向上している。「おおむね」で満わるのではなく、胸を張って「すすんで」と言える生徒を育ゆしたい。	良好である。	既に実施している、美化委員による清掃後の点検・改善を継続するとともに、生徒や教職への「すすんで取り組もう」という呼びかけを一層強化する。
２．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	学習意欲の向上	授業アンケート質問項目「学ぶことへの意欲が高まる。」回答スコア３．５以上	授業アンケート質問項目「学ぶことへの意欲が高まる。」回答スコア３．５以上の維持と更なる向上	アンケート結果では平均３．２９であった。昨年度は平均３．３７であったので微減している。	生徒実態調査でも、思った通りの学習ができなかったと回答した生徒の理由が「やる気がもてなかったから」だけでなく、「学習内容が理解できなかったから」と答える生徒が増えている。	「学習内容が理解できない」ことが学ぶ意欲を阻害しているのは問題である。丁寧な指導をお願いしたい。	学習内容が理解できないと、学ぶことへの意欲は高まりにくいと考えるので、今まで以上に、習熟度をもう生徒に対しての指導ができる時間や機会を設ける。
	学習意欲の向上	それぞれの行事についてアンケート満足度９０％以上	それぞれの行事についてアンケート満足度９０％以上	2年学部学外説明会は９６．７％、３年大学説明会は９１．０％の満足度となった。３年生対象の放課後時間帯公開授業は、特徴者ということもあり、１００％の満足度であった。	非常に高い評価値となったので、この値を維持できるよう、まだ無りなく１００％に近づいていけるようにエ夫をしていきたい。	生徒のニーズの把握に努め、学習意欲の向上に繋がるような行事の設定が重要。	生徒への事前アンケートを実施し、ニーズに応じた大学関係者の招聘を行いたい。また、授業時間内にとらわれず、放課後の時間をより一層活用する。
	探究的取組に向けての授業改善	授業アンケート質問項目「生徒の主体的な活動ができる。」回答スコア３．５以上	授業アンケート質問項目「生徒の主体的な活動ができる。」回答スコア３．５以上の維持と更なる向上	アンケート結果では平均３．４０であった。昨年度は平均３．３７であったので微増している。	各教育でエ夫した取組がなされていることがうかがえる。	良好である。	教員が具体的に手本えを感じることのできた取組について、教科や全体で共有できる機会を増やし、生徒の主体的な活動を５５に増やす。
	ICTを活用した教育活動	全教員がＩＣＴ機器を活用した授業の実施が５０％以上	ＩＣＴ機器を活用した授業を５０％以上実施している教員の割合が８０％以上	アンケート結果では６４％であった。昨年度は約５８％であったので増加している。	１・２年生の教室に電子黒板が入った。生徒が端末を持って来たりしていることもあり、各教科でエ夫した取組がなされていることがうかがえる。	設備面は整ってきたので、より効果的な活用を期待する。	多数的にICTを活用した教育活動が増えてきたが、効果的な利用頻度については、もっと研修が必要であると考えるので、その機会を増やすよう努める。
	進学率の向上	現役生徒の大学進学率９０％以上	現役生徒の大学進学率９０％以上	現在、専門学校等への進学が決定した者を除き残り約９３％の生徒が大学進学を目指している。	４年制大学進学希望者数は目標値以上と高い値となっているが、共通テスト対策の労力から来る私立志向が顕著になってきている。	現役合格できなかった生徒への継続的な指導をお願いする。	受験勉強を最後まで頑張り抜く生徒の育成を見据えた指導を継続していく。
	探究活動資料の充実	探究活動資料の図書館での利用度が前年度比増	探究活動資料を分類・整備し、提示して活用を促す。	資料を１月に生徒に提示、利用を促している。	予定通り取り組めている。	良好である。	来年度、さらに資料を購入・整備して、生徒に提示・利用を早りかける。
	学校における働き方改革	月に１回の定時退庁日を設定	学期に２回の定時退庁日を設定	２、３学期、それぞれ２回の定時退庁日を設けることができた。	先生方は協力的であり、その意識は充分に果たされたと感じている。	教員の働き方改革と生徒への関わりとのバランスが重要。	教員の働き方改革の取組について、保護者・生徒に理解していただけるよう取り組んでいく。
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア教育の充実	アンケート満足度９５％以上	アンケート満足度８５％以上	今年度は私立大学等関係教員をやめに１０講座の設定の方を お迎えし、実施いただいた。生徒も積極的に聞講し、有意義であった。事後アンケートでは約８９．５％が有意義であったと回答した。	当初の満足度には達しなかったが、多くの生徒が満足したことで一定の成果があった。	大人があらゆるチャンスを準備してやることが大切である。	生徒への事前アンケートを実施し、ニーズに応じた関係者の招聘を行う。
	アカデミックインターンシップへの参加	参加生徒数の前年度比増	参加生徒数の前年度比増	京都大学よりオンラインにて１１月に実施した。内容を一層充実させたことにより、参加生徒は２８名と前年度比で７名の増となった。	当初目標を達成することが出来たが、生徒の自主的な活動に成っているかは継続が残る。ある程度は教員主導で進めるべきだが、生徒が自主的に参加する内容であって欲しい。	生徒の自主的な参加を促して欲しい。	進路指導部からの連絡手段を各学年毎に整備し、活用で正確な情報発信に努める。また、興味を持っている生徒には担任等を通じて積極的に参加を促す。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	「奈良タイム」の効果的活用	プレゼンテーション後のアンケート 満足度９０％以上	プレゼンテーション後のアンケート 満足度８５％以上	学年末に実施のアンケート結果では９３．８％の生徒が、奈良TIMEの活動を通して、新たな発見や学びがあったと回答した。昨年度は８４．６％であったので増加している。	事前の調べ学習やフィールドワークに意欲的に取り組む姿勢がみられた。個人の働いたレポートを読みあったり、クラス内発表をして、奈良について もっと学びたいと感じた生徒も多かったようである。	良好である。	現状の奈良TIMEの取組は、本校の生徒にとって十分な取組になっている。今後も、今までの取組の蓄積を活かして、生徒が郡土を知り学ぶ機会となるよう取り組んでいきたい。
	地域行事への参加	参加行事数または参加生徒数の前年度比増	コロナ補助に参加していた行事が復活すれば参加率・家庭クラブ・茶道部・書道部等と連携し参加	クリーンキャンペーン、やまとの夏まつり、親子まつり学生サポーター等、復活した地域行事やラ年生者ので参加した行事でも意欲的に活動した。参加した生徒はのべ６５名で、前年度比で１５名の増となった。	地域とのつながりを実感できる行事に参加でき、生徒の感謝からも充実感がうかがえた。	良好である。	地域協働の意識も伝えつつ、今後とも関係各所と連携した関係を築いていく。
	学校運営協議会の効果的運営	学校運営協議会の開催　年２回以上	学校運営協議会の開催　年２回以上	６月と２月、年２回の開催ができた。	今年度の目標は達成することができた。	委員が、授業等、生徒の活動を参観できる場を設定して欲しい。	講師、学校の様子を報告するなど、さらに協議会の活性化に努める。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校と家庭・地域をつなぐ情報発信の向上	情報発信の方法の強化と、発信する内容の充実	情報発信の方法の整備と強化、及び発信する内容の充実と報道	コロナ禍により実施できずにいた事業(育友会社会見学、学校説明会、等)をさらに再開することができた。	事業も原状再開しコロナ禍前に戻り、Webページの発信内容の充実度や更新の頻度も徐々に上がった。但し、生徒の興味本の低さが課題である。	良好である。育友会活動が充実して実施できた。	保護者・家庭や、地域対象のWebページの役割と、生徒対象のWebページの役割を区別化し、さらに情報内容の充実と情報発信の頻度を進める。
	人権教育学習の充実	HRにおける時間数の確保と理解度の向上	人権HRに取り組む姿勢の自己評価が５段階で４以上の生徒が８０％以上	４以上の自己評価を示した生徒は、１年生は５８％、２年生は７５％、３年生は７７％、全体平均で６９％であった。	当初の目標を達成することはできなかったが、学年が上がるにつれ割合が上昇していることは、人権HRの継続的な取組の成果だと言える。	良好である。	生徒が主体的に活動し問題解決に向けて意欲を深められるような人権HRの取組を進めていく。
	特別な支援や配慮を要する生徒への対応力強化	SCとの連携強化や専門の教育支援計画などの作成	必要に応じてSCを交えてケース会議を行い、支援の充実を図る。	個々の状況に応じた形でSCと担任、SC・担任・相談部の連携を進めている。	生徒の抱える問題は多岐にわたり個々の状況によっては支援の充実につながりにくい場合もあった。	しんどいことをしんどいと言える状況を作って欲しい。	担任、学年との連携により注力し、支援の充実につなげる。
	グローバルな視点・経験の育成	リーダー育成海外研修・エンパワーメントプログラム参加者アンケート満足度９０％以上	リーダー育成海外研修・エンパワーメントプログラム参加者アンケート満足度　９０％以上	３月に実施だが、現在進行している事前研修の参加者の取り組む意欲はかなり高く、成果が期待できる。	アンケート実施は、プログラム終了後となる。	良好である。	一過性の取組ではなく、参加者が自身の今後の進路に生かせる行事となるよう検討していく。
	生徒の学習環境を整える	予定されている工事において、学校の教育活動への影響をなるべく少なくし工事が工期どおりに進むよう調整を行う。	駐輪天井耐震工事等において、学校の教育活動への影響をなるべく少なくし、工事が工期どおりに進むよう調整を行う。	駐輪天井耐震化工事が令和５年７月に完了した後は、学校の教育活動に影響が少ない土曜日を利用し、各種修繕を進めることができた。	順調に工事を進めることができたので、来年度の工事において生徒の教育活動への影響をなるべく少なくし、工事が工期どおりに進むよう調整を行いたい。	校門の開錠や防犯カメラの設置等、学校安全に向けた取組も検討して欲しい。	今後も施工業者等との連携を密にし、学校の教育活動への影響ができるだけ少なくなるよう調整を行っていく。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

中期計画の２年目を迎え、各分掌等がより高い目標を持って今年度の取組を行い、一定の成果を残せた点は評価できるところであり、学校関係者からも高い評価を得ることができた。次年度は、この評価に甘んじることなく、更なる改善に務める必要がある。
また、生徒の学校満足度調査で「本校に入学してよかった・どちらかといえばよかった」と回答した生徒は、合わせて８９．６％であった。